

オーストラリアの金利引き下げについて

2015年5月8日

5月5日（現地時間）、オーストラリア準備銀行（中央銀行）は定例の理事会において政策金利の0.25%引き下げを決めました。これで同国の政策金利は2.0%となりました。なお利下げは2015年2月以来となります。会合直前には利下げを予想する関係者も増えていたことから、為替レートへの影響は限定的でした。

《金利引き下げ決定に至った経緯について》

実施の背景としては、①景気鈍化への対応、②世界的な金融緩和環境における為替レートの上昇抑制、などが依然あるとみられます。

①オーストラリアでは政府・中央銀行は資源依存の経済から脱したいとの考えはあるものの、現実にはGDP（国内総生産）に占める鉱業部門の割合は高く、鉄鉱石をはじめとする鉱物資源が最大の輸出品目となっています。主要輸出先である中国の成長率鈍化や政府による同目標の引き下げを受けた鉱物資源の価格下落、鉱業部門の成長鈍化による固定資本投資の減少などが影響し緩やかな景気の減速感がみられます。

②ECB（欧州中央銀行）の量的緩和の導入、非ユーロ圏欧州でのマイナス金利の定着など、先進国でも景気鈍化や期待インフレ率の低迷を背景に金融緩和が広がっています。オーストラリアでも政策金利を据え置くことによる為替レートの上昇を回避したいとの考えが強いと思われる。

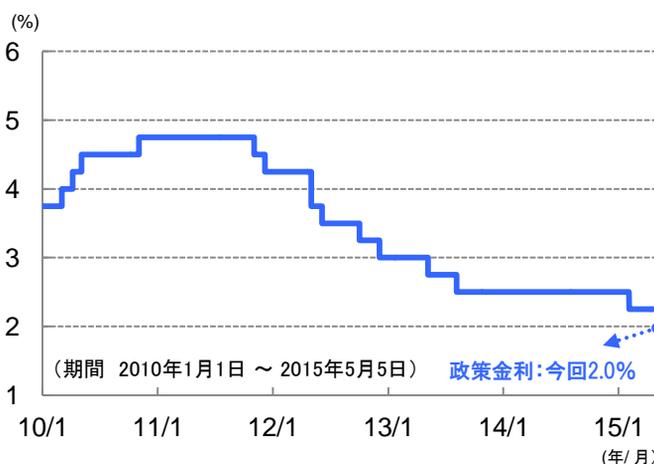
《今後の景気、為替レートについて》

オーストラリアでも他の先進国同様に緩やかながらも、物価上昇率の下落傾向が観察されます。同国は景気刺激を行うのに適した状況にありましたが、3月、4月と続けて実施を見送ったのは、景気が急速に悪化するような状況にはなかったことや、準備銀行が一部の大都市でみられる不動産市況の高騰にも配慮し、利下げ効果の確認を優先したためと思われる。

2013年以降、米ドルに対してオーストラリア・ドルは、緩やかな下落基調が続きました。ただ通貨当局は対米ドルでの調整は進んだものの、多通貨間では未だに相対的に高い水準にあるとの考えを変えておらず、状況次第では追加利下げの用意もあるとしています。

オーストラリア・ドルは、主要通貨に対し4月以降やや速いペースで上昇しましたが、追加利下げが実施されたことで調整局面を迎えるとみられ、レンジ内での動きに転じるとみられています。

《オーストラリアの政策金利の推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

《オーストラリア・ドルの対円推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。